



しんわ

No.154

夏季号

2026年

I H I
播磨病院



- * 小児アトピー性皮膚炎の最新情報
- * 2026相生ペーロン祭（その1）前夜祭海上花火大会
- * 2026相生ペーロン祭（その2）ペーロン競漕始末記
- * 昇格者挨拶
- * 「第32回日本医学会総会2027」に参加しましょう！
- * 新人紹介



小児アトピー性皮膚炎の最新情報

副院長 森田 秀樹

先日、開催された兵庫県臨床アレルギー研究会で、小児アトピー性皮膚炎研究の第一人者である大矢幸弘先生に、「アレルギーマーチから考える小児アトピー性皮膚炎の治療戦略」についてご講演をいただき、興味深く拝聴しました。このアレルギー研究会は、皮膚科からは小生と金澤伸雄先生も世話人として運営に関わっています。

アトピー性皮膚炎の研究、治療は急速に進歩しています。小児のアトピー性皮膚炎患者は食物アレルギーを合併していることが多いです。アトピー性皮膚炎の発症に引き続き、食物アレルギー、気管支喘息、アレルギー性鼻炎などを発症することがあり、アレルギーマーチと呼ばれています。そのメカニズムとして、皮膚バリア機能障害のある皮膚炎を生じている部位からの経皮感作で他のアレルギーが誘発される。と考えられています。

経皮感作を防ぎアレルギーマーチを阻止する方法として1) 新生児期から保湿剤を塗布し、アトピー性皮膚炎の発症を予防する。2) アトピー性皮膚炎に対するプロアクティブ療法。3) 食物抗原早期摂取による食物アレルギー発症予防。について述べられました。

アトピー性皮膚炎では、発症前から、皮膚バリア機能障害が認められます。従って、新生児期から保湿剤を塗布することによって、発症を予防できるのではないかと考えでいくつかの検索がなされています。その結果として、予防できないという報告もあり、発症に関しては、遺伝的要素の方が影響しているようです。アトピー性皮膚炎を発症すると、炎症のある湿疹病変から経皮感作がおこります。皮膚炎が重度で発症時期が早いほど感作の程度は強くなります。プロアクティブ療法は、アトピー性皮膚炎の治療戦略として、有効性が確認されており、経皮感作の進行も抑制出来ます。従って、乳児アトピー性皮膚炎の早期から外用療法を開始して寛解導入し、プロアクティブ療法をおこなうことにより続発する食物アレルギーを予防出来ます。しかしながら、ステロイド剤の長期外用は、皮膚の菲薄化、紫斑などの副反応が懸念されます。最近は、新規の非ステロイド外用剤も使用できるようになり、プロアクティブ療法をより安全に施行できるようになっ

ています。ちなみに、プロアクティブ療法とは皮膚炎が良くなっても真皮には炎症が残っていることが多いので、外用はしばらく続行する治療法です。

食物アレルギー発症には、経皮感作と消化管での免疫寛容が関連しています。以前は、除去食療法が行われていました。最近では、食物の乳児期早期摂取開始による免疫寛容の誘導が行われています。私達は、除去食が行われていた時から、経口免疫寛容を誘導できる可能性があるがあることを動物実験の結果により提唱していました。食物の早期摂取は、対象の選定や介入時期、方法の適正化など今後、更に検討されると思われます。

小児アトピー性皮膚炎は寛解すると、ツルツル、モチモチになりますが成人の場合は、小児のようにツルツル、モチモチにはなりにくいいため表皮セラミドの量などに差があるのか？質問させていただきました。回答としては罹病期間が重要で成人例でも罹病期間が短いとツルツルになるが、長期化すると、種々の要素が影響するため、ツルツルにはなりにくい。とのことでした。

アトピー性皮膚炎は当初、獲得免疫についての研究が中心でしたが、自然免疫の関与についての解析も行われています。獲得免疫では抗原提示細胞がT細胞を刺激してサイトカインが産生されますが、自然免疫に関与する自然リンパ球は抗原提示細胞の関与なしにサイトカインを産生しアトピー性皮膚炎の病態に関わっています。アトピー性皮膚炎でIgEが上昇しない例もありますが、自然免疫が主体の場合はこの現象は説明可能です。

アトピー性皮膚炎の病態解明が進むと共に、抗IL-4受容体抗体、抗IL-13受容体抗体、抗IL-31受容体抗体やJAK阻害薬が難治例の治療に使用されています。このような新規の薬剤は、アトピー性皮膚炎の歴史の中で、これまでにない画期的な治療薬と言えます。臨床効果からIL-4、IL-13といったTh2タイプのサイトカインがアトピー性皮膚炎の病態形成に重要な役割を果たしていることが改めて確認されています。



Acta Dermato Venereologica (Stockholm)に掲載された論文

2026 相生ペーロン祭（その1） 前夜祭海上花火大会

（医）IHI 播磨病院

理事長・病院長 西川 梅雄

例年相生では5月末に「相生ペーロン祭」が開催されます。

今年はその前夜祭として令和8（2026）年5月30日（土）19時50分～20時40分まで花火大会が開催されました。仕掛け・打ち上げ花火5000発が打ち上げられました。毎年大変な人出で、近くで見ることができませんでした。数年前から相生湾に面した部分が有料になり、所謂「場所取り」をする必要がなくなりました。今年は階段席のチケットが手に入りました。18時頃から歩いて会場まで行くのですが海が近づくにつれて人が多くなってきました。幸い有料席には順調に辿り着き18時半に入ることができました。19時半には有料観覧席に近づくことも難しい位、路上の観客が多くなっていました。

19時半に号砲数発。

私の席はHブロックの自由席でしたが、一人当たりのスペースは十分確保されていました。打ち上げ用の栈橋が前方やや左に2つ見え、100メートルも離れていない距離でなんとなくワクワクしました（写真①）。

前に遮（さえぎ）るものがないので、結構迫力があって良かったです。花火のプログラムは1～13までありました。

写真②はカラフルな花火があちこちで花を開いているのですが、画面に入りきりません。

写真③は一般に水中スターマイン（水中仕掛け花火）と言われるものです。真上に打ち上げる花火を相生湾の奥（画面では左から右）に向けて水平に近い角度で発射します。水面の上で、一部は水中で爆発し、花火の開いた部分3分の1～半分ぐらいは水中に消えますが、残りは水面直上で破裂したやつが水面に反射して綺麗です。これは「かぶりつき」でないと全体が分かりません。私は数十年相生に住んでいますが、初めて全貌が分かりました。

最後の写真④は最終プログラム「希望の黄金大瀑布」といいます。4分ぐらい続いて迫力満点でした。空いっぱい広がった花火が誠に綺麗でした。

以上とりあえず夏を先取りした花火大会の報告です。

なお私が撮った動画が2本あります。

動画①は「水上の万華鏡」というタイトル。約30秒。

動画②は最後のプログラム「希望の黄金大瀑布」約4分。

（当院ホームページで視聴できます）



←写真①

19時ごろ。私の座席からやや左方向を見た写真。まだ明るい。海上中央から右にかけてと左方向に主に2つの打ち上げ用栈橋が見える。一番右のブルーのラインが入った栈橋から相生湾奥(右方向)へ向かって水中花火(水中スターマイン)が発射されるので、ほぼ正面で水中花火を見ることができた。

写真②→

近すぎて花火が画面に入りきらない。赤、青、金色などカラフルな花火。



←写真③

左の打ち上げ台からほぼ水平に発射された花火。左から発射された束(タバ)状の部分や途中で水中に落ちる火の玉が見える。右寄りで大爆発した花火が水面に反射している。



↑写真④

最終プログラムの「希望の黄金大瀑布」の一コマ。先端の丸い「打ち上げ花火」が一斉に、絶え間なく上がり、爆発と共に大輪の黄金の花を咲かせて空いっぱいに広がっている。大輪の上部は画面からはみ出している。

2026 相生ペーロン祭（その2）

ペーロン競漕始末記

アーレー播磨病院
艇長 西川 梅雄

5月31日（日）晴れ。いつも通り7時頃起床。天気は良い。9時過ぎに家を出た。

道路は渋滞なので自転車で行く。IH1の入り口で自転車を降りて警備の方に挨拶して工場敷地に入場。また自転車に乗って数分で右に体育館が見えてくる。

数日前にペーロン競漕世話人？のO君に、「9時ごろ体育館につけばよいのか？」と聞いたら「そんな早く行っても誰もいませんよ」と言われる。開会式が9時頃。わが「アーレー播磨病院」の出艇はオープン参加の部で11時過ぎらしい。

9時半ごろ体育館前に着いて自転車を止め、中に入るとすでに10数名来ている。

その後ばらばらとメンバーが集まってきて10時過ぎに漕ぎ手右舷14名、左舷14名、太鼓と私で総勢30名がそろった（写真①）。

記念撮影してから体育館の裏でわがチームの終身総監督中田良二氏の指導で準備体操をして、最後に気合を入れる「天突き（てんつき）」を「よいしょ」の掛け声とともに3回行う（写真②）。まさにわれらの意気は天を衝（つ）くがごとしである。

11時頃、次出艇待ちテントへ移る（写真③）。

例えば2019年に終身総監督中田艇長の時、当チーム最速の約3分30秒で1着＝1等賞を取ったことを思い出す。その後コロナ禍もあって7年ぶりの出艇である。



←写真①

乗組員30名とサポーター2名で記念撮影。出艇前で意気揚々と。



↑写真②

準備体操の最後に「天突き」を行う。
右から2人目両手をあげて発声しているのが終身総監督中田良二氏。



↑写真③

出艇待ちのテントで。
右の「2」の看板は2コースという意味。

今回はオープン参加のAブロック、最終レース11時10分出艇予定で、1コース 天海（てんかい）、2コース アーレー播磨病院、3コース YANO.SC（ヤノエスシー、以下ヤノSC）、4コース 40周年記念セピア倶楽部OB（以下セピアOB）の4チームでのレースである。各チームの情報はほとんどなし。セピアOBは今回初結成初出場というが、母体の「セピア倶楽部」は強豪で、今日も1部リーグで出場している。

11時20分ごろ全員乗船し離岸する（写真④）。出漕点の竹竿のところへ行く。風は相生湾の入り口から奥に向かって吹いている。写真では右から左である。従って行きは追い風、帰りは向かい風になる。後半のスタミナが心配ではある。

11時25分頃「よーいゴー」の合図でスタートする。良いスタートを切った。最初5秒ぐらいまでは横一列であった（写真⑤）。すぐに4コースのセピアOBが抜き出る。これを追ってわがアーレー播磨病院、続いて3コースのヤノSCが追従してくる。1コース天海はちょっと遅れ気味。何とかセピアOBについていければよいと思うが、後半のスタミナを考えるとこのまま「よーそろ」（＝宜しく候、進路そのままの意）である。そうこうしていると折り返し地点の竹竿が近づいてくる。やや速度を落として「面舵（おもかじ）」をとり右へ回頭を始める。竹竿すれすれにいい感じでターンする。4コースを見るとセピアOBが既にターンを終える勢いだ。アーレー播磨病院とヤノSCがほぼ同時にターンを始めた感じである。

写真④➡

乗り組みを終え離岸してスタート点へ向かう。全員がそろって漕ぐのはこれが初めて。空は快晴、対岸に見物客が結構多い。



↑写真⑤

スタート直後。「アーレー播磨病院」（2コース、黄色のTシャツ）と手前の4コース「セピアOB」が並び、その間の3コース「ヤノSC」がやや遅れ、一番奥1コースの「天海」が最後に続いているように見える。

みよし（舳先、船首）が変わる（まっすぐ帰る方向を向く）のをまだかまだかと待ちながら頃合いを見て、前進全速の合図を太鼓のS君に送る。右舷前方にセピアOBがかなり差をつけているのが見える（写真⑥）。皆頑張って漕ぐが追いつかない。水しぶきが飛んできて顔に当たる。1コース天海は左舷かなり後方、右舷やや後方にヤノSCがいる（写真⑦）。何とかこのまま2着で入りたい。途中少しだけペースを落としたが、ゴール手前約50mあたりから全速の合図を送る。が、もひとつスピードが上がらない。私の目からは右舷後方にヤノSCが見えるので当然2着は確実と思っていた。とにかくそのままゴールに入った。ヤノSCとは約1秒差で、観戦していた人から見たらかなりやばい感じだったという。辛くも約1秒差で2着であった。

皆の無事上陸を確認し、舵取りの方に御礼を申し上げて上陸。

最後に記念撮影（表紙写真）。皆怪我もなく無事に帰還できたのが一番である。

天気晴朗、気分爽快な1日でした。チーム全員とサポーターの皆様ご苦労様でした。そしてありがとうございました。

体育館に戻って昼食（軽食）を食べ、解散した。

なお「潮流し」は後日ということになりました。

後日公式記録によると1着「40周年記念セピア倶楽部OB」3分29秒26、2着「アーレー播磨病院」3分52秒19、3着「YANO.SC」3分53秒32、4着「天海」4分32秒34であった。オープンレース全体では33チーム中13位という結果でした。

皆様の応援に感謝申し上げます。



↑写真⑥

ターン直後。写真左手前、4コース、セピアOBが1番でターン完了。2コース「アーレー播磨病院」と3コース「ヤノSC」（写真左手前セピアOBと重なっているので見えにくい）がほぼ同時、やや遅れて写真右奥、1コース「天海」が最後にターンして追いかけてくる。



↑写真⑦

ゴール直前遠景。右端奥岸壁に白・黒の大きな板が見える。この境目を舳先が横切った時がゴールになる。艇は右手前から左へ「セピアOB」、「アーレー播磨病院」、「ヤノSC」、左端奥に岸壁と区別しにくい「天海」が見える。この順番でゴールを切った。

昇格者挨拶

4月より放射線科科長を拝命いたしました増田です。
CT・MRI・FPD（一般撮影）も更新3年目をむかえ、稼働率・検査数アップが当面の課題であり、関係各所にはこの場をかりてよろしくお願いします。
近隣開業医からの紹介検査（CT・MRI）も放射線科では重要であり、良好な関係を築き引き続き連携を深めていければと思います。
また医師の働き方改革の一環として、造影剤静脈路の確保とそれに附随する業務が、放射線技師にも拡大されました。医療安全に注視し少しずつですが業務拡大に努めています。
私自身微力ではありますが、患者さんの安全と円滑な検査を心掛け、放射線科が少しでも病院のお役に立てるように頑張っていきたいと思います。今後ともご指導ご協力のほどよろしくお願いします。



放射線科科長
増田 直敏

この度、医療クラーク課の課長代理を拝命いたしました中津純子です。日頃より先生方をはじめ職員の皆様には多大なるご協力をいただき心より感謝申し上げます。
高齢化が進むこの相生市で当院が中核病院の役割を果たし続けるため、医師事務作業補助の機能強化による業務効率化と経営改善に貢献したいと考えております。
また、診療報酬改定に掲げられております医療DXの視点も取り入れ、生産性向上を目指します。先生方が診療に専念できる環境づくりに尽力いたします。
今後とも引き続きご指導をよろしくお願い申し上げます。



医療クラーク課
課長代理
中津 純子

2026年4月より医事課課長代理を拝命いたしました。この場をおかりして、皆様には日々お力添えをいただき、心より感謝申し上げます。改めて責任の重さを感じ、身の引き締まる思いです。昨今の医療情勢はとても厳しいものばかりです。当地域においても高齢化に伴い、医療のみならず介護や福祉等「生活」においての不安を多く感じます。また、診療報酬改定、医療材料・機器の不足、高騰など全国の病院側においてもそれは例外ではありません。地域の中で当院が絶えず必要とされるよう、接遇意識を高め、変化に強い病院となるよう唯一診療報酬請求を行う部署として、常に何ができるかを考え、より一層精進してまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



医事課 課長代理
下村 久子

このたび、総務課長代理を拝命いたしました松浦です。身に余る重責ではございますが、職務に誠心誠意取り組んでまいり所存です。
総務課は、病院運営の基盤を支える部署として、法令遵守を徹底しつつ、職場環境の整備や各種制度の運用を担っています。職員の皆さまが安心して業務に集中できるよう、円滑な組織運営と働きやすい環境づくりに努めてまいります。
働き方改革や情報管理の重要性が高まる昨今、総務課として果たすべき役割はますます大きくなっています。
微力ではございますが、皆さまのお力添えをいただきながら、より良い職場づくりに尽力してまいります。



総務課 課長代理
松浦 淳子

4月より薬剤科主任を拝命し、日々身の引き締まる思いです。また日頃より多くのご指導とご支援を賜り深く感謝しております。今年度診療報酬改定では在宅患者の残薬が社会的問題であることを受け、多職種協同のポリファーマシー対策、施設間連携が重視され薬剤師の職能を活かし医療の質の向上に貢献できる場であると考えます。高齢者の多い相生市で高齢者人口がピークとなる2040年度問題を見据え超高齢化社会への対応、医療費の適正化、地域医療の強化、タスクシフトによる業務効率化に対し多職種と連携を図り薬剤師としてスタッフと共に取り組みたいと思っています。
微力ながら病院の発展のため貢献できるよう努めてまいります。今後ともご指導ご協力のほどよろしくお願いいたします。



薬剤科 主任
澁谷 恵美子

「第32回日本医学会総会 2027」 に参加しましょう！

IHI 播磨病院 理事長・病院長
相生市医師会 会長 西川 梅雄

令和8年6月14日（日）13時から兵庫県医師会館で開催された第27回兵庫県医師会定時代議員会に参加しました。

会議の冒頭、来年の日本医学会総会会頭澤芳樹（さわよしき）先生（大阪けいさつ病院総長）が約15分間、来年春開催予定の「第32回日本医学会総会2027」の準備進捗状況の紹介と、日本医学会総会への参加を促す宣伝をされました（写真①）。

日本医学会総会は明治35（1902）年以来、4年毎に開催され120年以上続いている伝統ある学会です。なお日本医学会には現在144学会が加盟しています。

以下概略ですが、詳細は「第32回日本医学会総会2027」で検索してホームページをご覧ください。

「32回日本医学会総会2027」の会期と場所。

令和9（2027）年3月20日（土）～28日（日）市民展示（無料）、うめきたエリア（JR大阪駅周辺）。

令和9（2027）年4月22日（木）～25日（日）学術展示・講演会（有料）、中之島エリア。ノーベル賞受賞の山中伸弥先生、坂口志文先生の特別講演等があります。

医療関係者なら医師、歯科医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、その他メディカルスタッフ、病院事務、社会・介護福祉士、大学院生から学部学生まで幅広く参加できます。

すでに事前登録期間になっていますので、参加登録だけでもしておいてください。

なおメインテーマの「レジリエンスresilience」はちょっと舌を噛みそうになりますが、辞書では「弾力、復元力、回復力」を意味します。心理学では困難に直面しても不利な状況から再起できる力を表します（写真②、③）。

「今からでも登録してください」と澤先生が言うので、私は会議中にこっそり参加登録し、参加費もクレジット払いしときました。



写真①
澤芳樹先生のプレゼンテーションの後、
演壇上で記念撮影。
中央向かって左が澤会頭、右に八田会長。

皆様ご存じの通り、澤先生はiPS心筋シートを開発した人です。名刺によると現在社会医療法人大阪メディカル&サイエンスセンター理事長CEO、大阪けいさつ病院総長、大阪警察病院看護専門学校 学校長、大阪大学大学院医学系研究科特任教授の肩書をお持ちです。大変お忙しい中、兵庫県医師会代議員会に医学会総会の会頭が自らプロモーションに来るのは初めてかもしれません。

皆様ご存じでないと思いますが、澤先生と私は高校の同級生です。直接お会いする機会がほとんどありませんが、親しくして頂いて幸甚です（写真④）。

そういうことで皆様「第32回日本医学会総会2027」に是非是非参加してください。

合掌。



写真②

パンフレット（リーフレット）表紙。メインテーマは「医学のレジリエンス」右や下の QR コードから参加登録手続き可能です。



写真③

会頭挨拶（パンフレットから）、「レジリエンス」の意味などが分かる。



写真④

八田会長の開会の挨拶をすっぽかして楽屋へ侵入しツーショットを撮りました。澤先生のこんな笑顔見たことないかも？ お見送り役？の県医師会常任理事平林先生もちょうど真ん中に割り込んで入っている。皆いい感じでしょ。こんな写真レアものかも。